

\*我々が考える安全保障の定義 = 国家間の軍事的対抗に加え、国内や自然脅威も対象にした「総合的な安全保障」

## 1 現状分析

外部環境	中国の軍事力強化	軍事費が24年間で30倍に増加	安全保障強化の 必要性高まる
	朝鮮半島の不安定要因拡大	北朝鮮の暴発懸念 / 日韓関係の悪化	
	日米安全保障条約の意義変化	日本の主体性を期待	
内部環境	(安倍政権の)安全保障強化の推進	アジアが貿易全体の約5割⇒海上安全保障の必要性大 防衛費: GDP比の約1% (105位/世界125カ国) ⇒ 拡大要	国民の正しい「理解」 「安全保障意識の醸成」
	国民の安全保障意識	自分事として捉えられない(例) 沖縄基地問題ギャップ	
世論	偏った見方の国民が存在 確固たる意見をもたない	「在日韓国・朝鮮人の排斥」=約20%が共感する 「靖国参拝時の安倍首相のツイッター反応」=簡単に影響されて変化	不十分

## 2 現状から導き出される課題

安全保障を強化する「日本」	国内外の再軍国化への懸念に対し、 <b>平和主義を発信し理解してもらう必要あり</b> 沖縄の不公平感・不満感を理解する必要あり (地上戦の悲劇と在日米軍基地が集中=約74%)
安全保障意識の醸成	「知識のなさ」「一方的な見方への偏り」を痛感 (シンガポール博物館・八重山漁業組合長の話) → <b>近現代史の知識不足</b> ⇒ 日本を取り巻く安全保障も理解できない状況にある → <b>現場の視点・他国から見た日本の情報少ない</b> ⇒ 多面的な知識・見方が不足 = 他民族の排斥の考え方は自分視点だけの捉え方に原因

安全保障に対する「理解促進」と「安全保障意識を醸成させる教育」の充実が課題

## 3 課題解決に向けて

安全保障強化に対する理解促進のためには、他国の市民に直接働きかけていく「市民外交」が重要

我々の目標	政府だけでなく、国民一人ひとりが参画意識もち、日本を語る事ができる		文化や価値観の魅力
	日本国民が一丸となった市民外交 (交流)		+ ソフト・パワーを活かすべき
日本のソフト・パワー具体例	文化	アニメなどポップカルチャー / 伝統文化に加え、「おもてなし」「互譲互助」など日本人精神	
	政治・外交	唯一の被爆国として平和主義を貫いてきたこと / 発展途上国へのODAなどによる国際貢献	
	良い手本	アジア初の先進国、経済大国へと成長したこと / 阪神大震災などからの災害からの復興力	

### (1) ソフトパワーを活用した市民外交 に向けて

(途上国中心に) 親日国家は多い	(例) インドネシア: 「占領下時代の負」 < 「ODA」+ 「ドラえもん」人気作用で高評価
日本人は自国への評価が高くない	世界は何を評価? 共有化できていない <b>共有化⇒ソフトパワーと誇りを認識</b>
中・韓だけが反日感情	「ソフトパワーの魅力」≠「安全保障」日本 <b>ソフトパワーを活用すべき</b>

①日本の「安全保障の取組みや国際貢献」をアニメを使って世界に発信し、理解を得るべき(例=広報にドラえもん起用)  
 ②靖国参拝は慎重に検討すべき・ヘイトスピーチは抑止スタンスとるべき⇒平和的な解決意識を徹底

### (2) 安全保障意識を醸成させる教育

①ソフトパワーを含めた「アイデンティティ」	自国を語れるようになる	融合させた教育・学びをすること
②国際社会における日本「近現代史」	協力方法や解決策を導く	↓
③他国も理解した「国際感覚」	国際社会から信頼される	市民レベルでの安全保障の強化
④「安全保障の意義と平和主義を発信」		↓
		安心した経済活動+自国への誇り

国民一人ひとりの郷土愛・安全保障意識の醸成に繋がる

## 4 (解決策の実現に向けて) 我々の提言

### (1) 20世紀博物館の設立

3章で述べた4つの教育を学生や社会人が身近に学び、気付きの場として…

展示コンセプト例 (他博物館との主な違いは、日本と他国からの日本への視点も加え多面的に展示、国際感覚も養う)	
① 国際社会における日本近現代史を学ぶ	他国と日本を知り、良好な関係維持を図るため、ショックな話(例: 中韓の戦争史観や日本軍残虐さ)、イイ話(例: トルコ・スリランカの日本救出)もどちらも展示。
② 海外でのソフトパワー効果を学ぶ	アニメ人気の海外実情やODA・ビジネス貢献例から日本の誇りを学ぶ。また、定年後のシニア世代から経験談などを語ってもらうことも1案。
③ 安全保障意義と平和主義発信を学ぶ	世界6位の海洋国家であり、安定した貿易活動のためにも、日本の安全保障意義を学び、平和主義を発信できる人材を養成する。(マンガを使って展示)
④ サイバー適塾で体験したことを発信する	沖縄の実情や他国から見た我々が体験してきたことを発信する場としても活用。また、今後の活動や次世代以降も含めた活動情報の共有の場となることが理想。

日本人 (自国への誇り・郷土愛) + (安全保障意識) ⇒ 他国を理解して自国を語る

外国人 (日本の魅力) + (日本の平和主義を伴った安全保障) を理解 ⇒ 日本を理解する親日へ

今後の活動  
 ①関連する日本全国、更には世界の博物館を視察し、さらなる情報を取得する。そして、知り合った方々を中心に、博物館のあるべき姿を継続してディスカッションを行う。  
 ②関西の既存博物館の方々と相談し、例えば、沖縄県平和祈念資料館の特別展示を関西で実施する橋渡しを行う。

20世紀博物館のコンセプト実現に向けて、まずは賛同者を増やしていきたい

### (2) 市民訓練制度の導入

次世代を担う若者たちに、さらに郷土愛や安全保障意識を高めるために…

市民訓練制度の目的		
① 郷土愛	我々が学んだ視察先でその効果があることを確認でき、大きく期待できると考える ■マレーシア市民訓練制度「ナショナル・サービス・プログラム」 18歳の25%が選抜され、3ヶ月の合宿生活で座学・訓練・奉仕活動を行う	
② 安全保障意識	■防衛大学校 入学後、「郷土愛・公共心に加え、安全保障の行動意識ができた」との意見多数	
③ 災害時の対応ノウハウ	(特に自然災害の多い日本では)災害時の対応ノウハウの共有とともに 安全保障の1つとして対応力強化との観点でも有効であるとする	
実施内容案	対象	18歳~22歳の志願制
	期間	1~3ヶ月の団体生活 (例) 大学秋入学変更に伴う4月~9月迄を活用
	訓練内容	災害時の対応ノウハウの習得、ボランティアなど郷土愛の醸成、安全保障教育
	実施組織	各地域の防災組織と連携
	講師	自衛隊OB・消防局員OBなど

次代を担う若者が郷土愛・安全保障意識・災害時の対応ノウハウをもつことで、  
 ①市民・企業におけるDCP(地域継続計画)のリーダーとなり得る  
 ②(さらに災害時の後方支援)⇒自衛隊の負担軽減・災害時の防衛力の維持にも繋がる

20世紀博物館の設立、市民訓練制度の導入に向けた継続した活動が、国民一丸となった安全保障意識の強化になり、

グローバルでの安定した経済活動や日本の強みを活かしたビジネス獲得に繋がることを発信し続ける